

## 歴史に学ぶ—今後起こりうる庄内川の決壊

ちくさ文化の里づくりの会会長

志段味の自然と歴史に親しむ会世話人 高木 備太郎

### 庄内川はどこを流れているか—庄内川流域水系図を読む

#### 庄内川水系流域

岐阜県恵那市を水源にして土岐市瑞浪市多治見市と流れ（岐阜県では多治見川  
愛知県に入り春日井市名古屋市の守山・北・西・中村・中川・港区の各区を流れ  
伊勢湾に注ぐ

- ・水源の山は、恵那市・岩村町・山岡町の境となっている夕立山（727m）です。
- ・庄内川は恵那駅と武並駅の間で長いトンネルに入り、明智鉄道以降平行して県境まで下ります。
- ・愛知県に入ると、庄内川と中央線は、徐々に距離を広げ、勝川駅で南下し、庄内川を渡る。
- ・庄内川は、愛知県に入ると流域が広くなり、南側から矢田川が、北側から内津川、八田川が流入して来ます。
- ・地蔵川・大山川・五条川は新川に流れ込み、新川は庄内川と並行して海に注いでいます。

#### 庄内川が暴れ川である理由

- ①愛知県に入り流域が南北に広がる
- ②名古屋台地で南下できず西に迂回
- ③瀬戸・東農が焼物地帯であるため、森林が伐採され、土砂が流出し、天井川となる
- ④新田開発で河口がどんどん沖に

#### 暴れ川としての歴史を知る史跡—洗堰と新川

- ・古い尾張の国絵図では五条川は庄内川に流れ込んでいた
- ・天明4年（1784）～6年洗堰と新川をつくる（新川中橋西）

- ・堤防外側庄内川の堤防の内側の水位が5分（50%）を越えると自動的に水が堤防の割れ目から外に水が流れ出る

### 新川分流に至る庄内川水害年表（宝暦～天明期に頻発）

宝暦7年（1757）庄内川味鏡・比良・大野木、八田川五条川破堤

明和2年（1765）庄内川味鏡・如意・樋場、五条川岩倉破堤

明和4年（1767）庄内川比良・大野木・味鏡・土器野・松原・瀬戸赤津・猿投山で山津波。長母寺の南を流れていた矢田川流路変更。名古屋城下も浸水し城西は舟で往来。

安永8年（1779）7月庄内川味鏡・比良・大野木で破堤

8月庄内川志段味・上条・味鏡・比良・大野木で破堤

（この年は尾張の三分二が被害を受けた）

天明2年（1782）五条川清洲村朝日下流・合瀬川六師で破堤

天明3年（1783）大野木（現西区山田町）で破堤

堤防上の「水野士惇君治水碑」（『尾張徇行記』を書いた樋口好古が碑文を書いた

### 暴れ川としての歴史を知る地図

#### 文化10年（1814）玉野川上川禿地絵図面に見る治水対策

- ・志段味の自然と歴史に親しむ会の活動の中で中志段味の旧家で発見した庄内川上流部の文化11年（1814）の川絵図
- ・玉野川は、愛知県に入ってから江戸時代まで上流部で使われていた呼名で、明治になって庄内川に統一されるまでは、玉野川・勝川・味鏡川・庄内川・枇杷島川・稲葉地川・一色川とそれぞれの地域の名前で呼ばれていた
- ・禿地は「つぶれ地」と呼び、田畑が洪水で「潰れ」て年貢の取れなくなった土地を云う尾張藩独特の用語。

### 玉野川上川禿地絵図面が描いているもの

宝暦～天明期の洪水後の治水対策で堤防の補強と治水対策

①堤防の補強箇所 緑色の堤（古堤防） 赤色の堤（決壊し補強した堤防）

②補強によって潰れた田畑の記載（面積・石高・知行主も記載）

黄色の部分と文字情報

③堤防が切れて砂の入った土地

- ④洪水による川の流るの変化。「古川」と「今の川」を書く。
- ⑤「食い違ひ」「霞堤」による遊水地の箇所
- ⑥猿尾・堰・杵などの施設

- ・野添川沿の堤防のが一部切れていて、洪水時に田に水を入れて遊水地に
- ・堤防が連続せず途中で切れて「食い違ひ」があり水を田に入れる
- ・大留側の堤防には「喰い違ひ」があり、入江と渡し場が堤防の中にあった
- ・かすみ堤＝堤防の途中から木を植えて増水時に水が入るようにする

### 天明の治水以降の庄内川洪水

水野千之右衛門の献策で洗堰の開削と新川分流を行うが、費用がかさみ御役御免、しかし25年後に加増

#### 『藩士名寄』水野千之右衛門の項

天明6年(1786)閏10月日光川五条川庄内川御普請の儀(中略)御金筋取り計らい方先だつて申達候趣とは違却せしめ不調法之儀に付き、御役御免  
文化8年(1811)7月日光川五条川庄内川水行直御普請出来已後是迄之年歴水害薄く(中略)村方御救相成候段最初千之右衛門目論見行届候(中略)御足高五十石  
文化14年(1817)12月川々普請出来以後多年水害薄候付(中略)御足高五十石御加増

### 新川分流後の庄内川水害年表

天保元年(1830)庄内川辻村杵附近堤防決壊、幅下・柳町浸水。  
天保10年(1839)庄内川大留村杵の口で破堤  
嘉永3年(1850)庄内川味鏡・比良で破堤、小田井浸水。  
安政2年(1855)庄内川上志段味・大留・上条・破堤。矢田川・新川破堤。  
明治元年(1868)入鹿池決壊・庄内川17カ所破堤  
明治17年(1884)庄内川5ヶ所決壊。洗堰決壊。  
明治29年(1896)1週間以上の大暴風雨と津波で未曾有の大洪水

### 治水対策の歴史

大正7年以降愛知県による河川改修工事開始

昭和 17 年以降国直轄改修工事（北区守山区の工業地帯のための補強・矢田川付替工事）

昭和 44 年一級河川

昭和 48 年より庄内緑地公園整備

### **東海豪雨の体験①（2000 年 9 月 11 日～12 日）**

**東海豪雨の体験②**庄内川工事事務所の発言「どこが切れてもおかしくなかった」

2000 年 9 月 12 日東海豪雨の時に守山区志段味橋から上流の撮った写真  
平時に同じ志段味橋から上流を撮った写真  
私の個人的体験「中央線を土岐駅で降りタクシーで帰った」

決壊の可能性は今後さらに高まる－**庄内川治水地形分類図を読む**

### **今後更に高まる決壊の可能性**

#### ①地球の温暖化によるゲリラ豪雨の頻発

（百年に 1 回の洪水に備えるという従来の治水対策はもう通用しない。  
歴史上かつてないことが起こりうる時代）

#### ②この間の庄内川中流域での宅地開発の進行

（瀬戸市・尾張旭市・春日井市・守山区志段味）